

海事科学研究科附属練習船「海神丸」が神戸市主催「レジリエンスセッション 震災と未来のこうべ博」に参加しました

2025年4月26日（土）・27日（日）において開催された神戸市主催「レジリエンスセッション 震災と未来のこうべ博」に海神丸が参加し、被災地支援の一環を想定して医療コンテナの搭載・陸揚げの模擬運用についてのデモンストレーションを実施しました。

この医療コンテナは昨年の令和6年能登半島地震の際に現地にて実際に利用されたものです。

今回のイベントは神戸市が阪神淡路大震災後の30年を振り返るとともに、市民とともにこれからの防災・減災を考えていこうという主旨のもので、医療コンテナの開発、医療機器の提供、コンテナ移送・積み込みの物流サービスといった神戸市に籍を置く複数の企業と神戸大学附属病院（DMAT（災害派遣医療チーム）・災害時感染制御チーム）および海事科学研究科（海事基盤センター・海神丸）が連携して実現しました。

なお、期間中、神戸市長の久元喜造様、内閣官房国土強靱化推進室企画官の今井誠様をはじめ多くの方々が見学に来られ、デモおよび展示物を興味深く御覧になりました。

事前における十分な調整を経て26日（土）の船上・後部甲板への搭載、27日（日）の陸揚げを円滑に進めることができました。今回の模擬運用を通じて、医療コンテナのみならず支援物資等を積載した一般のコンテナの送達についての実行性を確認できたとともに、実際に支援が求められる状況にあっては搭載地・陸揚げ地の双方においてクレーン作業を伴うロジスティクス機能の確保、ならびにそれらとの連携を確実にする方策の確立が重要な課題であると認識することができました。

海事科学研究科 海事基盤センター



海神丸への搭載準備



後部甲板への搭載位置決め



後部甲板に固定（固縛）された医療コンテナ



見学用に岸壁に設置された医療コンテナ



医療コンテナ内部の見学（久元神戸市長が来訪）



船内電源の陸上への供給ボックス



DMAT（災害派遣医療チーム）・災害時感染制御チーム）および海事科学研究科（海事基盤センター・海神丸）ポスター展示